



2008～09 年度
国際ロータリー会長

李 東 建

Weekly Report Niigata



2008～09 年度
新潟ロータリー会長

柴 田 史 郎

新潟 RC 3 月第 1 例会 (2009.3.3) No.2790

(1) 「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

(2) 柴田 史郎会長挨拶

2月17日クラブ協議会が開かれました。各委員会から報告があり、各委員長にはクラブ全体の現状の把握をして頂けたのではないかと考えております。各委員会に持ち帰り、ファイアサイドミーティングなどで会員諸氏への情報提供と、今後の委員会の方針などの検討をお願いしたいと思います。また、23日には旧新潟市内7クラブ合同例会が、万代クラブのホストで行われました。当クラブからは44名という多くの会員の参加を頂きました。厚くお礼申し上げます。いよいよ次年度が動き出したとの実感をして頂けたのではないかと思います。

さて、ロータリアンとしての必要条件として、やはりそれなりにある程度の知っておく必要のある事柄がいくつかあります。まず、ロータリーの歴史をある程度知ること。また、「綱領」を良く理解すること。さらに、「モットー」といわれるものの持つ意味を理解することなども必要条件の一つかと思えます。本日はこのモットーの一つを取り上げます。

「最も良く奉仕するもの最も良く報いられる
(He profits most who serves best)」

このモットーをみますと、精神論的な解釈をしにくくなります。つまり、[金銭上の利益は得られなくとも、正しいことをしたという事実を経験した満足感によって、精神的な利益として報いられる] というような。

結論から申し上げますと、この解釈は間違いなのです。実際、多くのロータリアンが今でもこのように誤解して解釈しているのが実情です。

このモットーを考えたのはシェルドンと言う人ですが、彼の本意は①20世紀の実業人は、他人にサービスする事をモットーとすべき、②利益を他人とシェアするというサービス学を遵守すべき、③その結果として、自らの事業も発展と成功を勝ち得る、といった

事を言いたいのです。丁度、以前お話ししました近江商人の家訓である「三方よし」の考え方と同じなのです。ですから「Profit 報われる」の中身は、精神的なものを指しているのではなく、事業の成功という実利的なことを指しているのです。無論、その考え方の根底には倫理観の高揚を包含していますし、言外には他人の友情や尊敬を勝ち得るとか、良心の満足感を得られるといった意味の「報われる」ということなどを全く含んでいないとは言えないのも確かであろうかとは思っています。

従って、「職業奉仕」の考え方と重なり合うものであると考えられるわけです。

(3) 米山奨学生挨拶、奨学金伝達

アロンソ・デ・レオン・ダビド君

(4) 永野勇君へマルチプル・ポールハリス・フェローピンと第2回米山功労者感謝状贈呈

(5) 委員会報告

地主正人社会奉仕委員長より4月11日13:30より、だいしホールにて開催される公開シンポジウム「いのち！守り受け継がれるために」の参加・協力依頼があった。

(6) 幹事報告(山田 隆一幹事)

例会終了後、R情報委員会をロビーにて開催致しますので、委員の方はご出席願います。

(7) R情報委員会のお話

小 山 楯 夫 R情報委員長

3月10日の例会予定

卓話「にいがた酒の陣 2009 よもやま話」

緑川酒造(株) 代表取締役社長 大 平 俊 治 氏

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/>